

2 年 2 組

わたしたちで 幸せにしてあげたい
～山羊のあゆみちゃんとの暮らし～



山羊さん、尻尾を振ってくれるようになったよ

5月14日(木)に佐久市のメリーランドさんより、シバヤギの山羊さんを迎えました。山羊さんとの出会いの場では、待ちに待った山羊さんを前に、子どもたちは嬉しさでいっぱいでした。しかしながら、新しい場所に来て不安な山羊さんは、なかなか私たちの思い通りに動いてくれません。小屋に中々入ろうとせず、ずっと泣き叫んでいました。山羊さんの声は次第にガラガラ声になっていきました。そんな山羊さんを前に、Aさんは、「山羊さん不安なんだよ。早く安心してもらうために頑張りたいな」と私に力強く語っていました。初めの頃の山羊さんのうんちは、下痢やブドウうんちばかりでした。また、散歩をすると、嫌がったり、力強く引っ張ったりしたことでリードを外してしまい、脱走を繰り返していました。なかなか私たちの思い通りにいかないことばかりでした。子どもたちの様子を観察しているとBさんは、「山羊さん、ハッピー(3年生の山羊)のこと大好きだよ。ハッピーといるとき、泣かないもん」、Cさんは、「チモシーは、おいしそうに食べてくれるよ。食欲はたくさんあるみたいだね」、Dさんは、「『みんな行かないで』って泣いているみたい。できるだけそばにいてあげたいな」等、山羊さんとの暮らしの中で気づいたことを熱く語っていました。私たちは、「大切な家族になりたい、わたしたちで幸せにしてあげたい」という願いをもって山羊飼育を始めました。子どもたちの語りや山羊を見つめる眼差しから山羊さんへの思いがよく伝わってきました。もちろん毎日の掃除も欠かせません。うんち一つ落ちてないように、丁寧に掃除をみんなで取り組む姿がありました。初めの頃は、だれがリードを持つのか、喧嘩になっていたことも、「山羊さんが嫌な気持ちになるから仲良くしようよ」と譲り合いながら、仲良く散歩をする子どもたちの姿に変わっていきました。毎日のお世話に力をかけ、声をかけ、時に抱きしめながら、愛情もって育てているみんなの姿によって、山羊さんの様子も変わっていきました。散歩名人のEさんは、「無理やり引っ張るんじゃなくて、優しく山羊さんのお尻を押してあげると、歩いてくれるよ」とクラスの人に教えていました。牧草以外食べたことがなかった山羊さんに、お家から野菜を持ってきて食べさせてあげたFさんは、「先生、山羊さんキャベツが大好きみたいだよ、嬉しそうに食べてくれるもん」と教えてくれました。また、Gさんは「山羊さん、しっぽを振ってくれるようになったよ」と笑顔で私に報告してくれました。温かい雰囲気の中、愛情いっぱいお世話をし、山羊さんに働きかけていくことを通して、山羊さんからの働き返しを受け、さらに山羊さんへの思いを強くしていく子どもたちでした。

やぎさんとの出会い



わたしたちの思いを 名前に込めてあげたいな

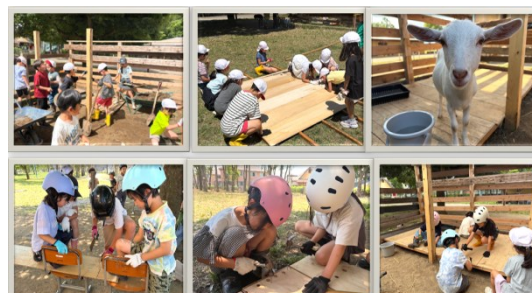
山羊さんと暮らしていく中で、早速Hさんが、「先生、早く名前をつけてあげたいよ」と言いました。「山羊さん山羊さんって呼んでいると、名前が山羊さんって覚えられちゃうよ」と言うと、Aさんも、「私たちだって人間人間って言われたら嫌だよ、早く名前をつけてあげようよ」と私に訴えてきました。Dさんは、「名前つけてあげることも、山羊さんの幸せになる」と語っていました。山羊さんの名前をつける前に、保護者の方に協力してもらい、一人一人、自分の名前の由来について、保護者の方に聞いてきてもらいました。子どもたちは、私に自分の名前の由来を熱く語っていました。お家の方の思いや願いが、自分の名前に込められていることを知った子どもたち。山羊さんとの名前を決めるときも、ど

うしてその名前なのか思いや願いを語っていました。名前の候補がたくさん挙がってきた中で、子どもたちと良い点、心配な点について語り合う場を設けました。その中でHさんは、「物の名前がない名前のほうが、山羊さんはうれしいと思うな」と言いました。続けて、Cさんは、「兄弟の名前とか、自分の名前と似ていると少し嫌かな。」と周りに訴えました。また、Iさんは、「見た目も大事だけど、見た目だけの名前だと山羊さんもうれしくないと思うよ」と語りました。早く名前をつけてあげたい反面、子どもたち一人一人に、山羊さんに対する思いがあります。話し合いは難航し、名前を決めることに沢山の葛藤がありました。ただ、Jさんの、「このままだと山羊さんがかわいそうで仕方ないよ」という言葉から、わたしたちの思いよりも山羊さんの思いを大切にし、みんなで「あゆみ」という名前をつけてあげることができました。Kさんは、名前が決まったとき、涙を流していました。「うれしい。やっと名前をつけてあげることができた。本当によかった」と涙ながらに語っていました。「山羊さん」から「あゆみ」と呼び方が変わったことで、さらにかけがえのない大切な仲間と、親しみや愛着が深まった姿が見られました。



暑さから、あゆみを守りたい

あゆみとの暮らしがスタートして約1か月。暑さからあゆみを守ろうと、「屋根小屋リフォーム大作戦」に取り組みました。初めて釘打ちにも挑戦しました。初めはなかなかうまく打てず、たくさん釘を打って練習する姿がありました。子どもたちが打った場所を活動後に見てみると、段々釘を打つ量が減っていき、いくつに気がつきました。Bさんは、「トンカチの向きがずれないようにまっすぐ打とうまくいく」と笑顔で話してくれました。



FさんとGさんは、釘が木の中に、段々入っていく気持ちよさを感じていました。また、その周りで板がずれないようにまっすぐ抑えている仲間の姿もありました。鋸で板を切る場面でも、友達が切りやすいように、みんなでサポートしていました。もちろん、釘を打ったり、鋸で切ったりするほうが面白いし楽しいと思います。ただ、友達が取り組んでいる場面でも、友達がやりやすいように、板を抑えてあげたり、アドバイスしたりする素敵な姿がたくさんありました。「あゆみのために」を合言葉に、友と協力する楽しさ、達成感を感じ、仲間を思いやる姿が増え、クラスの仲がより一層深まる様子が伺えました。7月上旬、暑さからあゆみを守るための屋根小屋づくりが完成しました。すのこの部分は、最後に一人一人の思いを込めて、全員で釘打ちを頑張りました。大勢が乗っても大丈夫! 土台が丈夫になるように、レンガを入れたり土で固めたりと、いろいろな知恵を振り絞って作りました。大人の手を借りる場面もありましたが、自分たちで作ったからこそ達成感に違いがあります。完成した際には、嬉しそうな表情が印象的でした。小屋にあゆみが入って来ると、早速、すのこの上に乗って、日陰で休んでいる姿がありました。



あゆみとの暮らしがスタートしてから2か月。これまでの暮らしを振り返る時間を設けました。作文からは、初めて出会った時のこと、あゆみの成長のこと、あゆみの好きなクローバーのこと、あゆみの具合が悪く心配したこと、あゆみの小屋を作ったことなど、一人ひとりのあゆみとの暮らしの日々が綴られていました。Lさんは、「私は、笑っているあゆみを見ていて、私も楽しくなってきた元気になってくる。あゆみは私たちの大事な山羊です(一部抜粋)」と綴っていました。「私たちが幸せにしてあげたい」と願い、飼い始めたあゆみ。Lさんの綴りからは、いつしか私たちこそ、あゆみからたくさんの幸せをもらっていることに気づいている姿だと思いました。あゆみとの暮らしを通して、子どもたちは相手を思いやる心、日々の小さな変化に気づく感性を育んでいます。これからも、あゆみとの暮らしの中で生まれる一つ一つの出来事を子どもたちと共に見つめ、動物と共に生きる喜び、責任、命の尊さについて学んでいきたいと思っています。

